

功勞調書

(職名) 三重県教育委員会委員

(氏名) 岩崎 恭典

一、略歴

平成二十三年三月十日 三重県教育委員会委員に就任(平成二十七年三月九日 退任)
平成二十四年十月二六日 三重県教育委員会委員長に就任(平成二十五年十月二五日 退任)
平成二十五年十月二六日 三重県教育委員会委員長に任命(平成二十六年十月二五日 退任)
平成二十七年三月十日 三重県教育委員会委員に就任

二、功勞の内容

- (一) 豊かな知識と経験且つ、崇高な人格をもって、三重県教育委員会委員長及び三重県教育委員会委員として、七年の永きにわたり教育行政に携わり、学校教育の充実、スポーツの振興、地域文化の発展と向上等、三重県の教育水準の向上とスポーツ及び文化の振興に多大な貢献をされた。
- (二) 学校教育の分野においては、いじめや暴力、不登校、教育格差と貧困の連鎖、少子化が進む中での学校教育のあり方など、複雑に絡み合う教育課題に対応するため、平成二八年度から平成三一年度までの具体的な教育施策や数値目標を定めた「三重県教育ビジョン」の策定に尽力された。
- (三) 子どもたちの学習意欲の向上と学習習慣の確立を図り、主体的に社会の形成に参画する力を身に付けるため、学校・家庭・地域が互いに連携・協力し、子どもたちの学力向上に取り組む方策として、平成二十四年度から四年間実施される「みえの学力向上県民運動」の推進や「みえの学力向上県民運動アクションプラン」の策定に貢献された。また、いじめの問題を克服していくため、学校、家庭、地域が相互に連携を深め、それぞれの役割を果たすことができるよう、平成二五年度においては「三重県いじめ防止基本方針」の策定に、平成二九年においては「三重県いじめ防止条例」の制定に尽力された。
- (四) スポーツ振興の分野においては、平成三十年度に三重県を中心とした東海ブロックで開催される「全国高等学校

(五)

校総合体育大会」の開催準備・運営に三重県の子どもたちが主体的に関わるよう、大会開催に関わる関係機関、学校体育団体、競技団体等との連携・協働に尽力されている。

文化財保護の分野においては、地域社会の安泰や災厄防除を願い、地域の人々が一体となり執り行われる「山・鉾・屋台」行事のうち、三重県桑名市で執り行われる「桑名石取祭の祭車行事」等三件が、全国三三件の行事の一部として、平成二八年一二月にユネスコ無形文化遺産に登録されるまで、関係市との協働のもと、その実現に尽力された。

功勞調書

(職名) 前 鳥羽市教育委員会教育長

(氏名) 齋藤 陽二

一、略歴

- 平成十七年七月一日 鳥羽市教育委員会教育長に就任 (平成二十九年六月三十日 退任)
平成十七年七月一日 鳥羽市教育委員会委員に就任 (平成二十年九月三十日 退任)
平成二十年十月一日 鳥羽市教育委員会委員に就任 (平成二十四年九月三十日 退任)
平成二十四年十月一日 鳥羽市教育委員会委員に就任 (平成二十八年九月三十日 退任)
(平成二十八年九月三十日 新教育委員会制度移行により、同 退任、鳥羽市教育委員会教育長として在職)

二、功勞の内容

- (一) 鳥羽市教育委員会教育長として家庭・地域と連携した教育環境づくりを進めるとともに、鳥羽小学校の校舎移転、弘道小学校及び加茂小学校の校舎建替等、学校施設の改修に大いに尽力した。また、神島小・中学校の移転及び改修においては、保護者や地域、学校とともに子どもたちの安全・安心を確保するため、新校舎の高台への移転を実現し、子どもたちを取り巻く教育環境の向上に向け、精力的に取り組んだ。
- (二) 市内小中学校の校舎等の耐震化を進めるため、学校施設の耐震補強工事の計画的な推進に尽力し、子どもたちにとって快適な教育環境の整備に大きく寄与した。
- (三) 子ども読書活動の推進や青少年の育成活動、生涯スポーツの推進に精力的に取り組み、地域社会の中で子どもを育てる環境づくりに尽力した。
- (四) 国登録有形文化財に指定された旧鳥羽小学校や鳥羽大庄屋かどやの保存や活用など、歴史的価値を有する文化遺産の保護や継承に大きく寄与した。
- (五) 離島のへき地複式校をはじめ、市内の各学校を精力的に訪問して各学校の実態把握に努め、子どもたちの学習環境

の維持と改善に尽力した。また、保護者や地域、学校と連携して、市内の小学校二校及び中学校一校の統合を進めるとともに各学校の適正規模と適正配置にも積極的に取り組んだ。

功 勞 調 書

(職名) 名張市教育委員会教育委員 (氏名) 福田 みゆき

一、略歴

平成十九年四月一日 名張市教育委員会教育委員に就任 (平成二十三年三月三十一日 退任)
平成二十三年四月一日 名張市教育委員会教育委員に就任 (平成二十七年三月三十一日 退任)
平成二十三年十二月二十七日 名張市教育委員会教育委員長に選任
(平成二十九年三月三十一日 新教育委員会制度移行により、同 退任、名張市教育委員会教育委員として在職)
平成二十七年四月一日 名張市教育委員会教育委員に就任
平成二十六年四月一日 三重県市町教育委員会連絡協議会会長に就任 (平成二十九年三月三十一日 退任)
平成二十九年四月一日 三重県市町教育委員会連絡協議会副会長に就任
東海北陸六県市町村教育委員会連合会会長に就任
全国市町村教育委員会連合会副会長に就任

二、功勞の内容

- (一) 平成十九年四月より、十一年以上に亘って名張市教育委員会教育委員として教育行政の発展に尽力されている。なお、平成二十三年十二月二十七日から新教育委員会制度に移行する平成二十九年三月三十一日までの五年三ヵ月余りの間は、教育委員会教育委員長として、卓越した識見と確固たる教育理念を持って、名張市における学校教育・社会教育の振興、教育文化の向上に多大な貢献をされた。
- また、平成二十六年年度から平成二十八年度までは三重県市町教育委員会連絡協議会会長を、平成二十九年度からは同会副会長を務められるとともに、構成組織である東海北陸六県市町村教育委員会連合会及び全国市町村教育委員会連合会の役員にも就かれるなど、各市町村教育委員会間との相互連絡や連携体制の構築に尽力されている。
- (二) 市内の小中学校施設耐震化事業や電子黒板導入などICT環境の整備推進、また、少子化の進展による児童数の

減少に伴い教育環境の向上を図ることを目的に策定した「名張市立小中学校の規模・配置の適正化基本方針及び同実施計画」に基づく小学校の統廃合の必要性について、保護者や地域住民の理解を深めるなど、次代を生きる子どもたちの適切な学校教育環境の整備に寄与された。

(三) 教育についての研修・研究や教育支援、教育相談、教育事業を実施する中核機関として開設した「名張市教育センター」の子どもの学びと育ちを支援する取り組みに対し、保護者などからの教育ニーズを積極的に伝えられている。

(四) 学校訪問の際には、単位PTA役員や市PTA連合会会長、県PTA理事等の豊かな経験と視点をもとに学校運営や授業の取組について問題提起や改善策の提案を積極的に行われている。

また、本年度六十一回の開催を迎える名張市美術展覧会の審査委員長に平成二十一年に就任されるなど文化振興に努められている。

青少年健全育成に関わる取り組みとしては、平成十七年四月に少年警察協助員の委嘱、平成十八年四月には三重県立入調査員の任命と合わせ、名張少年サポートふれあい隊として花火大会や祭礼時のほか、毎月、街頭パトロールによる青少年に対する声掛けや店舗への啓発等の活動を行われている。

(五) MIK運動(子どもたちへの関わり方「子どもの様子をよく見〔M〕て」「言うべきことは言〔I〕って」「子ども」の話はよく聞〔K〕いて)推進委員会委員長として、家庭や地域、学校が連携する取り組みや啓発を進められている。また、県内で初めて平成十八年三月に制定された「名張市子ども条例」による取組として、子どもが構成メンバーである「ばりっこ会議」や子どもが企画・主催する「ばりっこモール」の支援が行われている。

三、その他特記すべき事項

功労の内容に記載した以外にも名張地区既成市街地再生計画策定委員会委員や名張市特別職報酬等審議会委員、名張市行財政改革推進委員会委員、名張市モーター類似旅館建築等審議会委員(現任)等多数の市政運営に重要な役割を果たす行政分野の審議会等の委員も歴任されている。